

「総合型地域スポーツクラブがあって良かった」

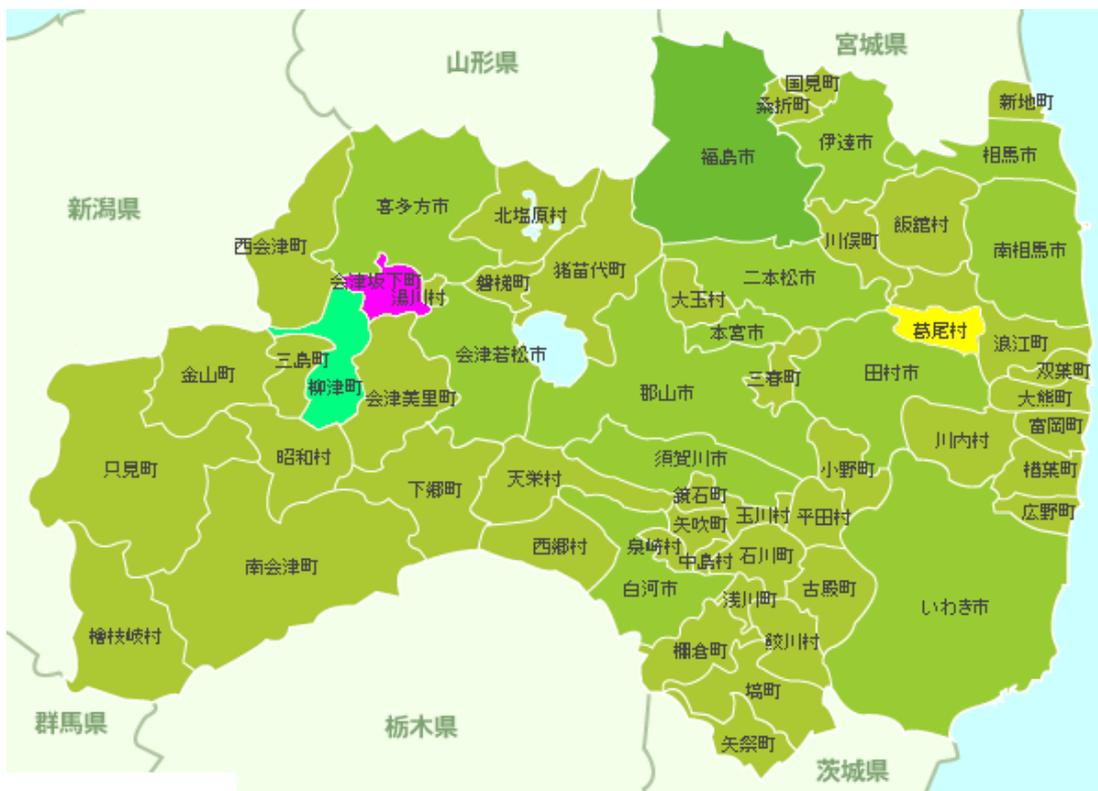
総合型地域スポーツクラブとは。地域コミュニティとは。

福島県クラブ育成アドバイザー 海老根 慧

3月11日、緊急地震速報と共に激しい揺れに襲われ、その瞬間から周辺の様子が一変しました。何が起こったのかわからないまま、その後津波、原子力発電所の事故と次々とトラブルが発生し、何をやるにしても、限られた情報の中で自分自身が判断し動かなければならないという状況に追い込まれていきました。

福島県双葉郡「葛尾（かつらお）村」は、東京電力福島第一原子力発電所から直線距離にして、およそ17km～33kmの範囲の距離に位置していることから、震災発生後村内の一部が警戒区域（20km圏内）に該当し、大部分が計画的避難区域に指定されました。

「葛尾村」は震災後、災害対策本部を「会津坂下町」に設置しましたが、村民が全員「会津坂下町」に避難したわけではなく、それぞれの判断で安全だと思う場所へ避難したため、村民はばらばらの状況となりました。



「かつらおスポーツクラブ」会長の中島道男さんは、「柳津町」に避難されていました。7月29日、中島さんの避難先をうつくしま広域スポーツセンターの愛川さんと共に訪問しました。到着してすぐに、愛川さんから、「多分作業場にいるんじゃないかな、前回はそうだったから」と言われ、避難所の外にある作業所に向かうと、予想どおり中島さんはそこにおられました。中島さんは作業場でお世話になっている柳津町の方にお礼がしたいということで、表札

を作られていたり、このようなことがあった中で新たにできた柳津町民との絆を大切にしたいという思いを込めて、木を彫り様々なものを作られていました。

作業が一段落し、避難所内に向かうと、入ってすぐに一つの大きな部屋があり、そこでは子どもたちは遊んでいたりと、お母さん方はお話をしていたりとそれぞれに時間を過ごしていました。

そこで中島さんから現在の状況などお話を聞いていると、午後3時を迎え、お母さん方がスイカを振る舞い始めました。聞くと、それは中島さんが作られたもので、他にも野菜などを作られているということでした。そうこうしているうちに、子どもからお年寄りまで人が集まってきて、一緒にスイカを食べながら話をしたりし始めました。

その状況を見ていて、総合型地域スポーツクラブのクラブハウスとは、まさにこういうものなのだろうと感じました。そこに行けば誰かがいて、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が共有できる空間がそこにはありました。

中島さんは、「あえて配りに行ったりはしないで、来てもらうようにしている。特に年配の方は動く機会が少ないので、歩いてきてもらうことで体を動かす機会にもしている」と、コミュニティ形成に加え、運動機会の提供も兼ねて行っていました。また、中島さんは日常生活の中で同じ避難所に避難している主に高齢者を対象に、健康体操など運動をする機会を提供しているということでした。



作業場にて、中島会長と。手に持っているうちわは徳島県からの支援物資。

現在、福島県内では、多くの避難所は閉鎖され、避難を余儀なくされている方々は各自治体が設置した仮設住宅に移られています。避難所においては、プライバシーがないことが問題になっていましたが、その分情報をすぐ得ることができましたし、困った時には相談できる人もいました。良くも悪くも人の顔が見える状況でした。

多くの仮設住宅ではその逆の状況であることが予想され、プライバシーが守られる分、仮設住宅内に閉じこもりがちになります。実際に、隣の人とすら関わりがないというお話も聞いております。仮設住宅の中に閉じこもり、寝たきり、座りきりの状態が続くことでエコノミー症候群等が発症してしまうリスクや、困っていても相談できる相手がいないといった状況を防ぐためにも、仮設住宅と共に設置されている集会所等を活用し、そこにコミュニティを形成し、その上で体を動かしたり、人と人とが支え合えるような雰囲気作りをすることが、今後さらに

必要になってくると思われます。

現在、中島さんはじめ葛尾村の多くの方々は「三春町」に二次避難し仮設住宅にて生活しています。中島さんは、避難所にいた頃のように運動の機会を提供したいと考えていますが、住民はあまりやりたがらないということで、現在は様子を見ている状況になっていますが、様子をみながら徐々に取り組んでいこうとされています。

3月11日に発生した震災以降、多くのものを失った中で、県内各地ではコミュニティの重要性を再認識し、人と人がつながろうという意識が高くなっています。そのような中で、すでに総合型地域スポーツクラブがある地域では、クラブ、またはクラブに関わる人がその中核を担う役割を果たしている事例も少なくないと思います。

世の中は私たちが求める以上にますます便利になり、人は一人でも生きていけると勘違いし、わずらわしい人との関わりを避ける傾向となっているように思われます。

今回の震災以降、ガソリンの供給が不足し、自分の足で歩かなければならない状況や、情報が遮断され、自分の判断で動かなければならない状況に追い込まれた中で、そこに相談できる相手がいれば、そこに協力できる仲間がいればと感じることが多くありました。総合型地域スポーツクラブはスポーツ振興に加え、“いざという時に助け合える関係がある地域づくり”に向けたコミュニティ形成を期待されているものと思われます。地域住民が協働することが、震災に伴う大きなマイナスをプラスに変えていく力になると信じています。また、震災から学んだことは被災地以外の方々とも共有し、より良い地域づくりに向けてさらに広い視点で協働していければと思います。

最後にこの場をおかりして、震災により亡くなられた方、未だ地元に戻る見通しが立たず仮設住宅等での生活を強いられているの方々にお見舞い申し上げますとともに、県外から福島県を支援してくださっている多くの方々に対しお礼申し上げます。

【かつらおスポーツクラブ プロフィール】

- | | |
|---------------|---|
| 1. 設立 | 設立年月日：平成15年2月1日
経緯：村内体育指導委員が中心となってクラブを設立。 |
| 2. 地域 | 人口：1,484人（平成23年8月11日現在）
特性：自然に恵まれた地域。
過疎が進み、高齢化率は30%を超えている。 |
| 3. クラブ | 会員数：130人（平成23年7月1日現在）
特徴：村内の子どもから高齢者まで交流を重視した事業
自立した運営を行っている
予算規模：60万円 |
| 4. 連絡先 | 現在、三春町に二次避難をされ、仮設住宅での生活を強いられている。 |

▼海老根慧氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/7.htm>